

カーボンフットプリント (CFP) 算定報告書

株式会社徳永製茶

嬉野玉緑茶、水出し嬉野茶



00 背景

SAGA COLLECTIVEは佐賀の11業種12社が集まったグループです。「循環と継承」を掲げ、地域産業の持続可能性を高める活動をしています。

私たちのものづくりの根幹である自然環境の保全は、最重要課題です。

2021年の設立当初より、自社排出量（Scope1,2）の把握、削減、相殺に取り組み、異業種連携ならではのノウハウの共有と切磋琢磨、カーボクレジットの地産地消モデルを確立しました。

グリーン購入大賞や脱炭素チャレンジカップなどの受賞を重ね、全国区で脱炭素のリーディング企業群となりましたが、経済と環境の好循環を実現するには、一般消費者にとって納得感のある算定とわかりやすい表示、これを広げていく人材育成が喫緊の課題です。

そこでCFPの算定・表示ルールを策定し、地域でこれを先導できる人材を育成する環境省「製品・サービスのカーボンフットプリントに係るモデル事業」に2025年6月に参画しました。

このたび、自社から算定対象をサプライチェーン全体に拡大し、組織から商品単位に精緻化してCO2排出量を把握しました。数世紀続いてきたものづくりを次の100年も続けられるよう、さらなる削減に取り組んで参ります。

01 算定概要

報告年月日 2026年1月30日

算定対象期間 2024年4月～2025年3月

更新情報 初回

算定目的 自社製品のGHG排出量の把握、分析
なお、このCFPは他社製品との比較を目的としたものではありません

算定実施事業者 SAGA COLLECTIVE協同組合
(佐賀県佐賀市諸富町山領266-1)

02 算定情報

製品情報

製造者 株式会社徳永製茶

商品名 1 嬉野玉緑茶

内容量 1 70g

商品名 2 水出し嬉野茶

内容量 2 70g (5gティーバッグ×14個入)



02 算定情報

算定対象としたライフサイクルステージ

ライフサイクルをすべて含めます

原材料調達

生産

流通・販売

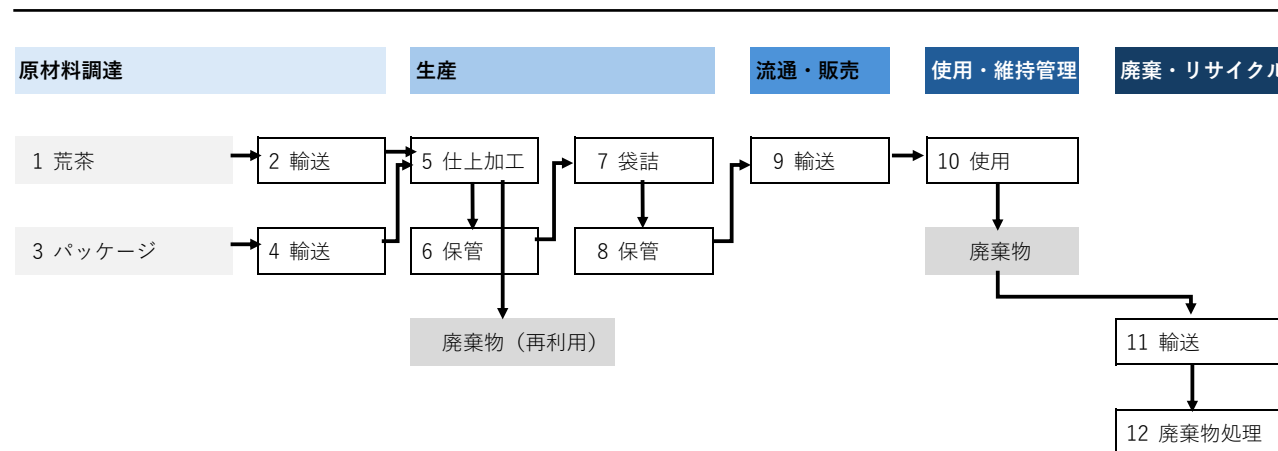
使用

廃棄・リサイクル

02 算定情報

算定対象としたプロセス

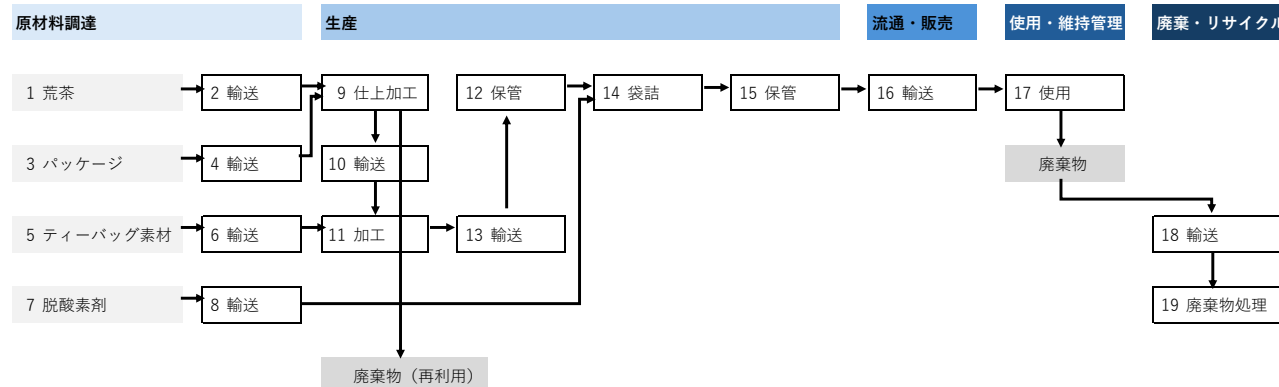
商品名1：嬉野玉緑茶



02 算定情報

算定対象としたプロセス

商品名2：水出し嬉野茶



02 算定情報

参照規格とデータ収集方針

参照規格

- カーボンフットプリント ガイドライン
(経済産業省、環境省)
- ISO14067:2018等のISO規格
- GHG Protocol product standard
- カーボンフットプリント算定・表示ルール
(SAGA COLLECTIVE協同組合 Ver1.0)

データ収集対象とした 地理的範囲

取得可能なものは一次データの活用を原則とし、プロセスが実施されている地域・施設のデータで算定しました。

二次データベースの名称

- 一次データが収集困難な場合、下記の二次データベースを使用しました。
- AIST-IDEA (Inventory Database for Environmental Analysis) Ver.3.5.1
 - サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出量等の算定のための排出原単位データベース (Ver.3.5)
 - 温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度

02 算定情報

対象としたGHGと地球温暖化係数

対象としたGHG

算定時点で最新のIPCC第6次評価報告書(AR6)を参照し、以下のGHGを対象とします。

- 二酸化炭素(CO₂)
- メタン(CH₄)
- 一酸化二窒素(N₂O)
- ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)
- クロロフルオロカーボン類(CFCs)
- パーフルオロカーボン類(PFCs)
- 六フッ化硫黄(SF₆)
- 三フッ化窒素(NF₃)

選択された 地球温暖化係数

CO₂以外のGHGはIPCC報告書100年GWPを用いて換算し、CO₂e (CO₂相当量) として対象GHGの合計値を表示します。

02 算定情報

カットオフや配分など注記すべき事項

| | |
|---|---|
| カットオフした対象 その理由 | エネルギー消費がない手作業等のプロセス、対象製品に固有化できないものや、消耗品で算定結果に影響が極めて少ないと判断されるものはカットオフしました。 |
| 配分方法 | 生産段階において、物理的特性（質量）に基づく配分を実施しました。 |
| 電力の取扱い、 計算方法に関する 注記すべき事項 | 株式会社徳永製茶は再生可能エネルギーを100%使用しています。 |
| 金額や経済価値に 基づいて計算した部分 | 金額や経済価値に基づいて計算した部分はありません。 |

02 算定情報

使用したシナリオ

「加工食品共通CFP算定ガイド【別冊】共通シナリオ」に基づき、
次のシナリオを使用しました

流通・販売段階の輸送 (輸送距離)

- 県内に閉じることが確実な輸送の場合：100km
 - 特定地域に限定されない場合（国内）：
1,000km
-

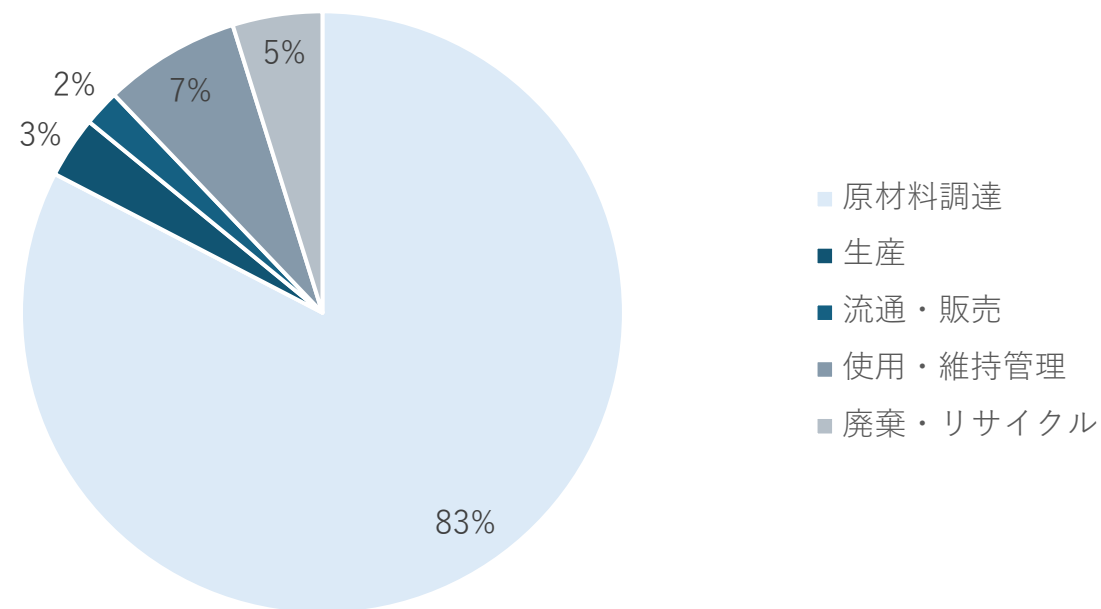
使用・維持管理段階の 使用

- 電気ケトルの電力消費
消費電力量[kWh]
=水道水重量あたりの電気消費量¹[kWh/kg]
×算定単位あたりの水道水重量[kg]
×調理対象全体に対する算定対象製品の重量比
率[%]

¹0.1097kWh/kg

03 算定結果

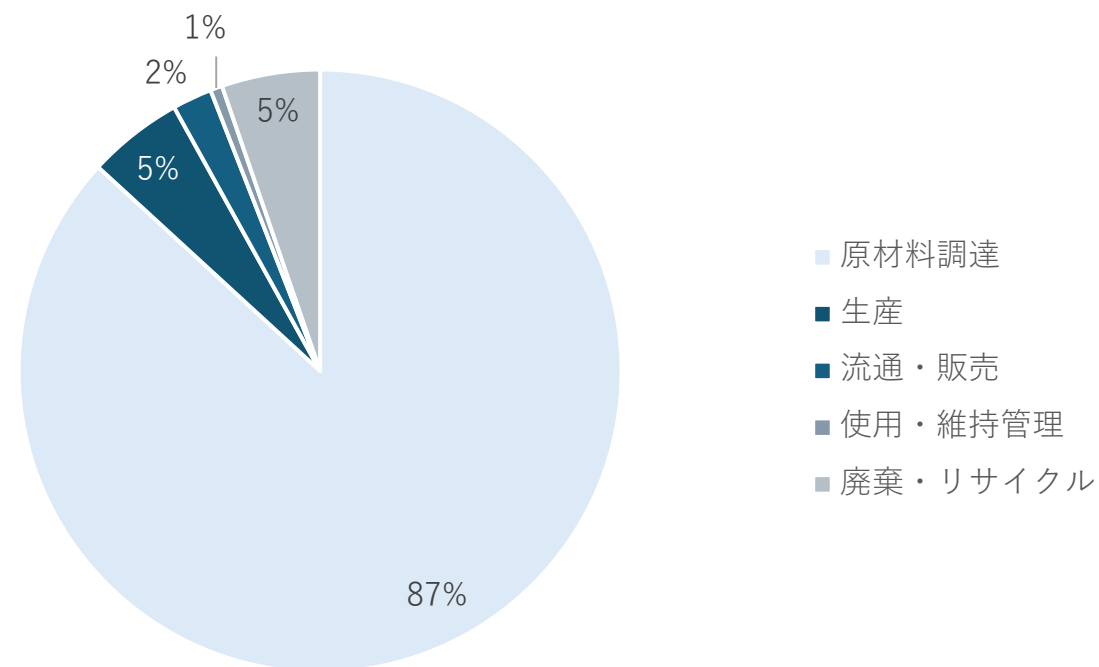
商品名1：嬉野玉緑茶 1.17kg-CO2e



※CFPとは、製品の原材料調達から廃棄、リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通じた温室効果ガス排出量を、CO2排出量として換算した値。この表示は私たちのさらなる排出量削減を目的としたものであり、他社製品との比較を目的としたものではありません。

03 算定結果

商品名2：水出し嬉野茶 1.06kg-CO2e



※CFPとは、製品の原材料調達から廃棄、リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通じた温室効果ガス排出量を、CO2排出量として換算した値。この表示は私たちのさらなる排出量削減を目的としたものであり、他社製品との比較を目的としたものではありません。

03 算定結果

算定結果の解釈

原材料調達に8割以上を占めます。うち、原材料である荒茶の調達が大部分を占めています。今回は二次データベースに基づき算定しましたが、まずは生産農家と連携し、原材料調達における一次データの取得と分析に取り組みます。

茶葉タイプの商品「嬉野玉緑茶」とティーバッグタイプの商品「水出し嬉野茶」の2商品で算定しました。

原材料調達段階において、ティーバッグ素材と脱酸素剤の差分により、「水出し嬉野茶」の方が排出量は大きいです。一方で、使用段階において電気ケトルにてお湯を沸かすプロセスがある「嬉野玉緑茶」の方が排出量が大きく、トータルでは茶葉タイプの商品「嬉野玉緑茶」の方が排出量が大きいという結果になりました。つまり、お湯で淹れるか、水で出すかの違いにより、CFPは逆転するという興味深い結果となりました。

当社のパッケージは環境に配慮したバイオマス素材を使用していますが、これを反映した一次データの取得や二次データベースのデータの不足が課題です。今回はこういった環境負荷低減効果を反映できていないため、当社の努力が算定結果に反映されなかったのが心残りではあります。環境配慮型素材の普及を促すには、算定結果に反映されるしくみづくりが望まれます。

